

建築家・葛西萬司の岩手県盛岡での設計活動とその特徴

feature of Architect Manji Kasai in Morioka

○安樂駿作², 大川三雄¹Shunsaku Anraku², Mitsuo Okawa¹

Abstract: Manji Kasai (1863-1942) is known as an architect worked with Kingo Tatsuno in Tatsuno-Kasai architect office. It is the first architect office in Japan. The most famous work is Tokyo terminal building (1914). Kasai assisted Tatsuno in many Tatsuno works. We know Tatsuno's work, but we do not know architect Kasai himself and Kasai's design. In this article, I would like to clarify architect Kasai in order to analyze his hometown Morioka's works.

1 はじめに

建築家・葛西萬司は辰野金吾と共に日本で最初の建築設計事務所、辰野葛西建築事務所を立ち上げた人物として知られている。葛西は辰野の右腕として東京中央停車場など多くの建築を残しているが、その作品の多くは辰野の主導で設計が行われたこともあり、葛西萬司自身の設計活動についてはほとんど語られていない。葛西は岩手県盛岡の有力者・葛西家に養子として入り、葛西の盛岡での設計活動は葛西家との関係から多くの建築を残している。本稿は盛岡の建築の近代化に寄与した葛西萬司という建築家像を明らかにすることを目的とする。

葛西の設計した建築物については『日本建築士』^[2]より、葛西日銀技師時代に日本銀行本店を含む3件、それ以降の辰野葛西、葛西田中、葛西単独の3つの建築事務所時代に事務所、商店57件、銀行、取引所41件、病院15件、学校図書館19件、倶楽部、住宅82件、停車場3件、工場、倉庫53件、演技場、劇場10件、特殊建築8件合計288件の設計業務に関わっている。

その中で現在確実に葛西が関わっていることがわかっている盛岡に建築されたものは事務所、商店で4件、銀行、取引所4件、病院3件、学校図書館2件、倶楽部、住宅1件、工場、倉庫1件、演技場、劇場3件、特殊建築3件合計21件である。本稿ではこの21の建築について外観とビルディングタイプにより考察する。

2 建築家・葛西萬司について

葛西は1863(文久3)年に平泉に生まれ、盛岡の有力者葛西家先代葛西重雄の養子になる。12歳の時に上京し、明治23年東京帝国大学建築学科を卒業する。その後日本銀行技師となり、辰野金吾の補佐として活躍し、日本銀行本店(M30)では製図主任、日本銀行西部支店(M32)と日本銀行大阪支店(M36)でも辰野

と共に設計に従事している。葛西の仕事は辰野の建築の詳細部の設計であった。1902(M36)年に辰野葛西事務所を設立し、辰野葛西として多くの建築を設計する。その代表が東京中央停車場(T3)である。1918(T8)年に辰野が亡くなった後、清水組技術部長田中実と共に葛西田中建築事務所(1927-1937)の開設した時を除き、晩年の1942(S17)年まで単独で建築事務所を営み設計活動を続けた。

葛西の人物像としては辰野葛西事務所の所員の回想文^[1]が象徴的で、『厳父の辰野に対し、慈母の葛西』と称されるところから、静かで温厚な人物像であったと考えられる。

3-1 盛岡での作品における外観意匠の特徴

葛西の盛岡での建築作品は明治40年の旧南部藩邸から晩年の昭和13年までの期間に集中している。代表的なものとして辰野葛西事務所で設計した盛岡銀行本店(図1)の辰野式ルネッサンスの銀行建築である。しかし以後、盛岡での葛西の建築作品では赤煉瓦を用いる建築はみられない。昭和2年の盛岡貯蓄銀行では、ギリシャ風のオーダーを取入れた歴史主義の外観意匠に内部はアールデコを採用し、辰野のデザイン要素はほとんど見ることはできない。その後の葛西の作品は昭和元年の盛岡病院にみられるセセッション風の建築、中央映画劇場(図4)などの映画館や昭和10年の松屋デパートなどの商業建築では外観意匠としてモダニズムの建築意匠がみることができる。

さらに葛西は旧南部藩邸にみられる和風の大邸宅の中に応接の機能として洋館を挿入した、和洋折衷の設計や、盛岡市聖堂(図3)のように和風建築も設計している。よって、辰野の設計活動が西洋の意匠をもつ建築が中心であったのに対して、葛西は建物のビルディングタイプによって建築デザインを自由に選択する

1: 日大・理工・教員、Prof., College of Science and Technology, Nihon University

2: 日大理工・学部・建築, College of Science and Technology, Nihon University

ことができる建築家であったことが言える。かつ、その建築デザインでは辰野の継承はなされていないことが言える。

3-2 盛岡での作品にみるビルディングタイプの特徴

葛西の盛岡での建築活動は表 2 のように辰野葛西事務所の時期とそれ以降の時期に大きく分けることができる。その代表が辰野式の盛岡銀行本店であり、辰野葛西所属時期の葛西の盛岡の設計活動は銀行建築と盛岡劇場（図 2）の規模の大きいビルディングタイプであると言える。辰野の死後、葛西は単独事務所になるが、盛岡での設計活動は続く。しかし、ビルディングタイプは多様化している。大正 9 年の榊ビル、昭和 10 年の中央映画劇場などの商業建築や、大正 14 年盛岡電燈火力発電所といったインフラ施設の設計、さらに昭和 11 年の盛岡市聖堂に見られる特殊建築が代表的である。このように葛西の設計活動は辰野以後より幅広くなったことが言える。

4 まとめ

葛西萬司という建築家像には辰野金吾の補佐という側面だけでないことがわかった。盛岡での作品より建築意匠は辰野式の継承は行わずに設計していることがわかる。また盛岡という地方都市での都市文化の発展において葛西の設計した建築は幅広いビルディングタイプに渡っており、特に金融から商業建築、病院などの近代化、都市文化の発展において重要な役割を担っていたことがわかる。

5 今後の研究

本稿では、葛西の盛岡での建築活動を建築の外観デザインやビルディングタイプにからの考察を行った。

葛西は辰野葛西事務所時代に、建築の詳細図や施工

などの建築技術や材料、積算などの分野を担当しており、実務者よりの建築家であったと考えられる。今後の研究では葛西が辰野の建築作品や自身の設計で、どのように設計図を作成し、請け負った施工業者への指導を行っていたのかなど調査することで明らかにしていきたい。

（参考文献）

『日本建築士』昭和 17 年 8 月号

〈図版出典〉

図 1 筆者撮影 2011. 9

図 2 『あの角を曲がれば一伊山治男写真集』

図 3 『図説盛岡四百年』郷土資料研究所

図 4 『この角を曲がれば一伊山治男写真集』地方公論社

[1] 『日本建築士』昭和 17 年 8 月号では、追悼特集として葛西萬司の特集が組まれている。そこでは葛西萬司の略歴、作品目録、所員の回想などが掲載されている。



図 1：盛岡銀行本店（M44） 図 2：盛岡劇場（T2）



図 3：盛岡市聖堂（S11） 図 4：中央映画劇場（S10）

西暦	元号	業務・金融建築	生活文化・商業建築	生産研究	インフラ施設
1906	M40		旧南部藩邸		
1910	M44	盛岡銀行本店			
1912	T2		盛岡劇場 ×		
1916	T6	岩手農工銀行本店 ×			
1918	T8	辰野金吾死去、単独、辰野以外との共同事務所へ			
1919	T9		サカキビル[デパート] ×		
1920	T10		葛西荘洋館 ×		
1921	T11	岩手銀行本店 ×	劇場 内丸座 ×		
1924	T14				盛岡電燈火力発電所 ×
1926	S1			盛岡病院	
1927	S2	盛岡貯蓄銀行本店			
1928	S3			盛岡電燈本社 ×	
1929	S4			岩手医学専門学校附属病院	
1930	S5	盛岡信託本社 ×			
1934	S9		三笠映画劇場 ×		
1935	S10		中央映画劇場 × 松屋デパート ×		
1936	S11		盛岡聖堂(孔子堂)		
1937	S12			岩手中学校校舎 ×	
1938	S13		第一映画館 ×		
1942	S17	死去			

「日本建築士」昭和17年より葛西萬司作品一覧より作成

西暦	元号	所属	建築作品名	建築様式(外觀)	特徴
1910	M44	辰野葛西事務所	・盛岡銀行本店	辰野式フリークラシック	赤煉瓦にドームを持つ辰野式
1912	T2		・盛岡劇場	ルネサンス様式	日本で二番目、東北で最初の劇場建築
1913	T3		・岩手県農工銀行	ルネサンス様式	不明
1920	T10		・葛西荘洋館	不明	不明
1923	T13	葛西(単独)建築事務所	・岩手銀行本店	ルネサンス様式	不明
1923	T13		・原敬氏位碑堂	不明	不明
1924	T14		・盛岡電燈火力発電所及び変電所	不明	盛岡最初の火力発電所
1924	T14		・盛岡市大慈寺 物庫	不明	不明
1925	T15		・岩手病院本館及び病舎	ゼセッション風	不明
1925	T15		・盛岡病院	ゼセッション風	不明
1927	S2		・盛岡貯蓄銀行	ギリシャ風古典主義	不明
1928	S3		・盛岡電燈株式会社	ゼセッション風	不明
1929	S4		・岩手医学専門学校付属病院	不明	不明
1929	S4		・岩手医学専門学校校舎	不明	不明
1930	S5	・盛岡信託株式会社	不明	不明	
1919	T9	葛西田中建築事務所	・盛岡市紳具服店	ゼセッション風	ショーウィンドウを持ち、盛岡で最初の西洋の意匠の商業建築
1935	S10		・盛岡市松屋百貨店	モダニズム	商業施設で初めてエレベーターを導入
1935	S10		・盛岡大通映画劇場	モダニズム	不明
1936	S11		・盛岡市聖堂	和風	鉄筋コンクリート造に御影石仕上げの和風建築
1937	S12		・岩手中学校校舎	不明	不明
1939	S14	単 葛西事務所 葛西事務所 葛西事務所	・盛岡第一映画劇場	モダニズム	不明